

入選

名前のない家事

北海道 緑中学校
二年 汲川 さくら

私の家のおこづかいは、お手伝い制です。小学校1年のときから、1回につき10円で始まり、学年が上がるごとに単価が10円ずつ上がっていきます。

今は中学校2年なので、1回につき80円です。お手伝い内容は、お米を炊く、お皿を洗う、洗濯をする、お風呂を洗うなどです。

私は、お皿を洗うのが好きです。理由は洗剤のにおいが好きだからです。洗濯も柔軟剤がいいにおいなので好きです。

苦手なのはお米を炊くことです。理由は水加減が難しく、いつもご飯がやわらかくなってしまいます。

お手伝いをするのはめんどくさいけれど、嫌いではありません。なぜかというとお母さんが仕事から帰ってきたとき、きれいだと嬉しいかなと思ったからです。

お手伝いをしたあとは、カレンダーに印を付けます。でも、私はときどき印を付けないことがあります。理由はお皿が少なかったり、お米が無洗米だったり、シャンプーの詰め替えをしたときなど、80円をもらうほど手伝っていないと思ったからです。

お母さんが休みのとき、夜ご飯をテーブルに並べてカレンダーに印を付けなかったら、お母さんに、「カレンダーに付けないの？」

と言われました。私は、

「大丈夫。お手伝いっていうほど働いていないよ。」

と言いました。すると母に、

「ご飯並べたり、乾いた洗濯物を片づけたり、デグー（ペット）の世話をしたり、宅配便を受け取ったり、さくらは“名前のない家事”っていうのをたくさんしてくれているから、本当に助かっているよ。大したことないと思っても立派な家事だから、カレンダーに付けていいよ。」

と言われました。

私は、おこづかいがもらえるのも嬉しかったけれど、カレンダーに書かなくてもお母さんが気づいてくれていたことが嬉しかったです。

調べてみると、食事のあとの調味料を片づけたり、ペットボトルを分別して捨てたり、玄関の靴を片づけたり、名前のない家事の中にも、できることがたくさんありました。

これからも、できることは小さなことでもやっと思いこうと思ったり、やってもらえるのがあたりまえだと思わずに、感謝する気持ちを忘れないようにしようと思いました。